**算数科　学習指導略案**

１　校種・学年　小学校・高学年

２　本時の目標

・一つのグラフから、いろいろな情報を正確に読み取ることができる。

・読み取った情報をもとに予想を立てたり、疑問を持ち、その予想の根拠や疑問の解答となる別の資料を選択し、理論的に説明することができる。

・社会科や理科での既習の事項をグラフと関連させて考えることができる。

　 ＜本時の展開＞

|  | **児童の学習活動** | **指導上の留意点** | **備考** |
| --- | --- | --- | --- |
| 導入 | ・元になるグラフを見て、そこから読み取れることを発表する。  [提示するグラフの例]  大阪市・那覇市の平均気温・日照時間、UVインデックス、道路舗装率等（資料：気象庁・統計局）  （発表例）  ・8月の気温は、大阪市も那覇市（沖縄県）も同じくらいの気温になる。  ・夏の日照時間は大阪市の方が短い。 | ・グラフの読み取り方を思い出せるようにする。  ・本時のねらいを知る。 | ・４年時の既習事項の確認なので、あまり時間をとらずに、さっとすすめる。 |
| 展開 | ・元になるグラフを見て、予想できることを考える。  ・予想の中から、グループで１つ選び、発表する。  （発表例）  ・日照時間が長いほど、紫外線量が多い。  ・都会ほど平均気温が高いのはなぜか。 | ・はじめは個人で考え、グループで交流して、１つ選べるようにする。  ・予想を確認するためにどのような資料が必要なのか見通しを立てさせておく。 | ・他のグループと予想が同じでも説明の仕方は違うのでよい。 |
| ・グループで、予想を説明するために、必要な資料を検討して選ぶ。  ・予想をわかりやすく説明できるように発表メモにまとめる。  ・各グループで発表する。  ・自分の考えと比較しながら発表を聞く。  （発表例）  ・予想と違い、日照時間が長くない６月でも、紫外線量が多いことがあった。日照時間が短いからといって、紫外線量が多いとは限らないのかもしれない。  ・大阪府が沖縄県より気温が高い原因は大阪府の道路舗装率が高いからだろう。 | ・あらかじめ、必要と思われる資料を複数種類準備しておく。  ・わかりやすく説明するために、数値を割合等で表すとよいことを伝える。  ・どのグループから順番に発表させるのか机間巡視を行い決めておく。  ・説明するための資料がどうしても見つからないグループに対しては、「このような資料があれば、予想が成り立つ」という視点から説明させたり、理科や社会の既習事項から、関連して説明できる資料を利用できることを知らせたりする。  ・調べた結果、予想や説明が間違っている場合も、それが調べてわかったことに価値があるということを理解させる。  ・複数の資料を提示させ、それら関連づけて説明させる。 | ・児童の実態に応じて、準備する資料の数を決める。(資料数が多いと、難易度は高くなる。)  ・資料がない場合も想定して、タブレット等の情報端末も準備しておく。  ・複数の資料を一度に比べられるようにする。 |
| まとめ | ・振り返りを書き、発表する。 | ・本時の授業でわかったこと、感じたことを共有できるようにする。 |  |